

2020年度

南河内二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフットイングで
病床機能分化の議論を進める

1

Contents

- ① 南河内二次医療圏の概要
 - (1) 今後の医療需要の見込み
 - (2) 医療体制の概要
 - (3) 診療実態の分析の結果

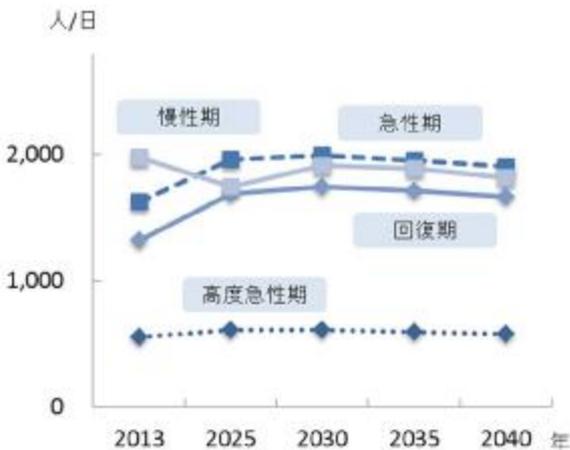
- ② 将来のあるべき医療体制に向けて
 - (1) 2025年に各病院が検討している病床機能
 - (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

2

1 南河内二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

南河内二次医療圏の基準病床数推計値は、最大となる2030年においても、2017年の既存病床数より1000床以上少ない

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	556	611	1.10	608	1.09	594	1.07	580	1.04
急性期	1,629	1,962	1.20	1,997	1.23	1,957	1.20	1,909	1.17
回復期	1,321	1,688	1.28	1,745	1.32	1,715	1.30	1,669	1.26
慢性期	1,981	1,750	0.88	1,915	0.97	1,894	0.96	1,816	0.92
合計	5,487	6,011	1.10	6,265	1.14	6,160	1.12	5,974	1.09

参照：第7次大阪府医療計画 一部改編

1 南河内二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

南河内二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が2病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が3病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン補足調査対象	公的医療機関等2025プラン対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
1	医療法人宝生会PL病院								○	○							
2	富田林市 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林病院		○			○				○							
3	河内長野市 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター		○		○	○				□							○
4	松原市 社会医療法人垣谷会明治橋病院					○											
5	阪南中央病院					○								○			
6	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター	○						○	○	○	○		○		○	○	○
7	医療法人春秋会城山病院									○							
8	藤井寺市 市立藤井寺市民病院	○						○									
9	社会医療法人さくら会さくら会病院							○									
10	大阪狭山市 学校法人近畿大学近畿大学病院		○	○						□	○	○	○	○			○
合計		2	3	1	1	3	4	1	2	6	1	1	1	2	1	1	3



2020年10月末時点
【対象病院数36の内訳】
公立病院：2
公的病院：3
民間等病院：31

※ 「がん診療拠点病院」の□は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」, ○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。
※ 「周産期母子医療センター」の○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

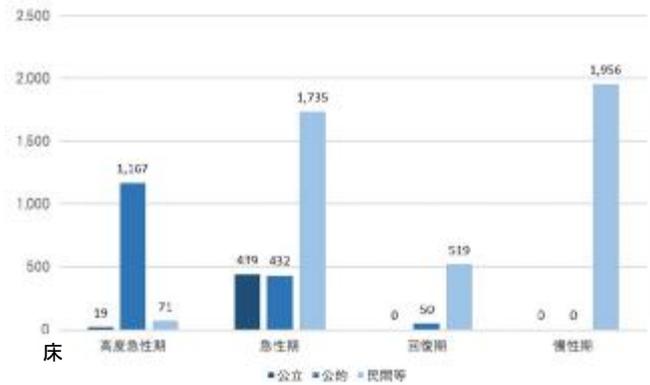
1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

急性期・回復期・慢性期において、
民間病院等が有する病床数が多い

●病院プラン調査等提出

公立・公的・民間等	対象病院数	提出病院数	提出率
公立	2	2	100%
公的	3	3	100%
民間等	31	31	100%
合計	36	36	100%

●病床機能別病床数



参照：2020年度病院プラン調査等

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

公立・公的医療機関の病床機能は、ほぼ急性期及び高度急性期である

●公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出36病院(公立2、公的3、民間等31))



参照：2020年度病院プラン調査等

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要④(公民別病床機能)

●【参考】保健所管内別病床機能別割合

病床機能別病床数【令和2年】(藤井寺保健所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	19	439	0	0	458
公的	0	0	0	0	0
民間等	26	1,035	250	519	1,830
計	45	1,474	250	519	2,288

病床機能別病床数割合【令和2年】(藤井寺保健所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	4.1%	95.9%	0.0%	0.0%	100%
公的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
民間等	1.4%	56.6%	13.7%	28.4%	100%
計	2.0%	64.4%	10.9%	22.7%	100%

病床機能別病床数【令和2年】(富田林保健所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	1,167	432	50	0	1,649
民間等	45	617	351	1,438	2,451
計	1,212	1,049	401	1,438	4,100

病床機能別病床数割合【令和2年】(富田林保健所管内)

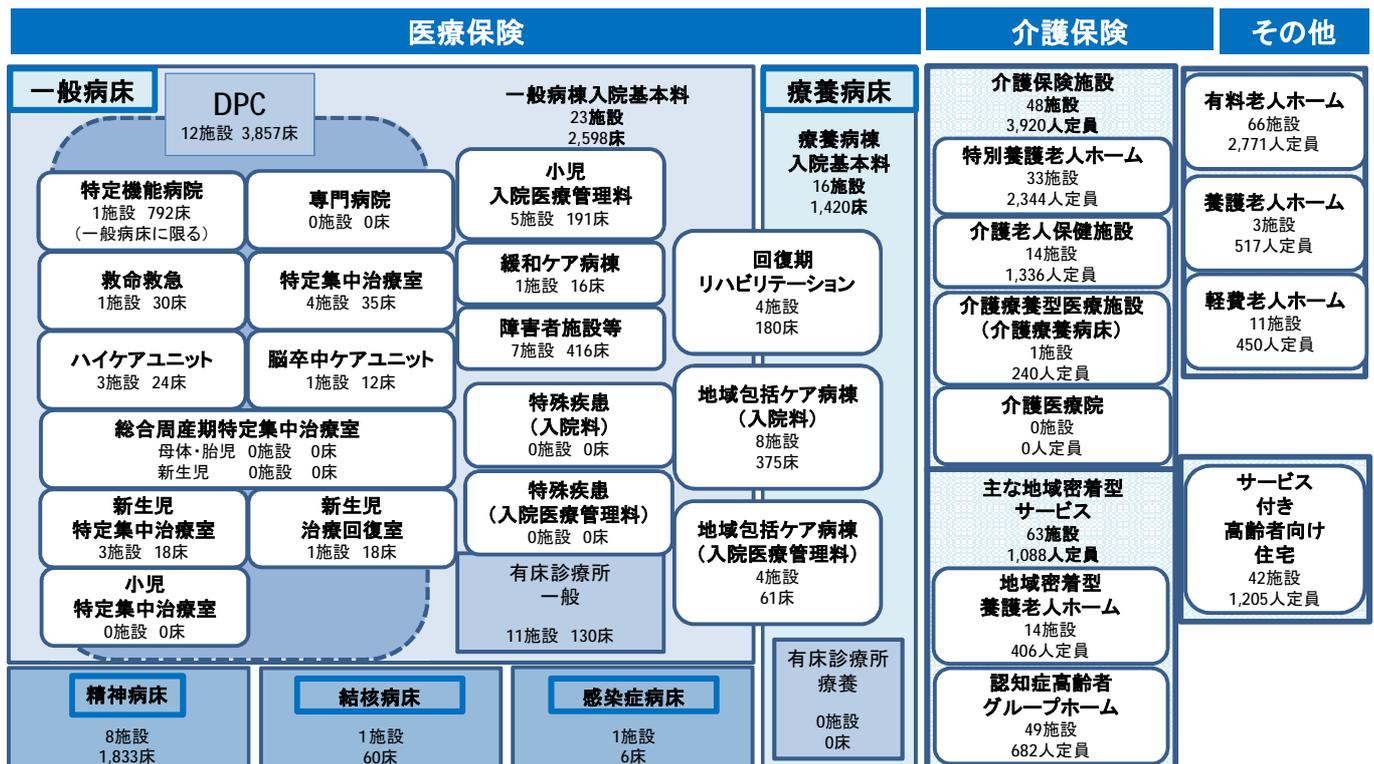
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
公的	70.8%	26.2%	3.0%	0.0%	100%
民間等	1.8%	25.2%	14.3%	58.7%	100%
計	29.6%	25.6%	9.8%	35.1%	100%

参照 2020年度病院プラン調査等

7

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑤(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されている



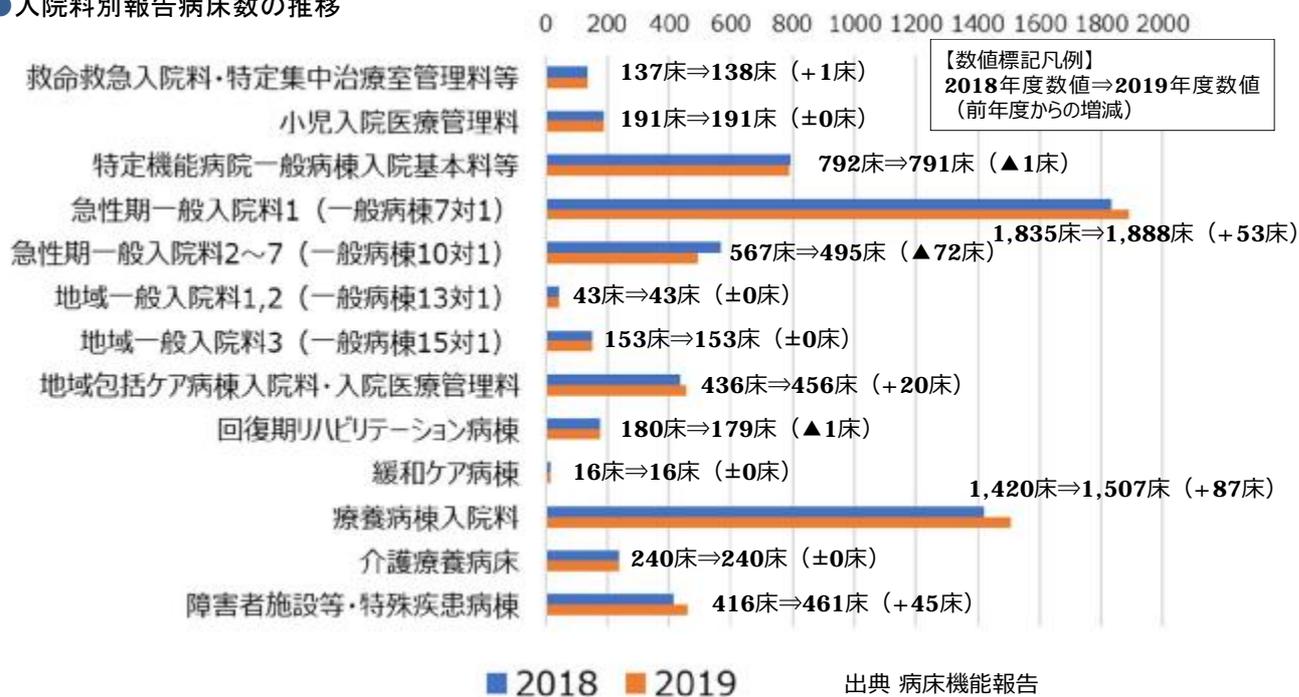
出典 「医療保険」病床機能報告(2018年7月1日時点の医療機能:2019年10月集計)ただし、次項目は右記のとおり、精神科・結核科・感染症科(大阪府健康医療部資料(2019年3月31日現在))「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームは2018年1月1日現在、その他施設は2019年4月1日現在)

8

1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑥(入院料別の経年変化)

急性期一般入院料は、2018年度から2019年度で19床の減少となった

●入院料別報告病床数の推移



1 南河内二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑦(転換補助金)

「病床転換促進事業補助金」の交付病院数は府全体で増加傾向であり、南河内二次医療圏においては3病院に対し、交付実績がある

病床転換促進事業補助金(実績)

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	7	6	0	315	285	0
2019年	8	4	1	256	44	6
合計	30	21	6	1096	636	166

南河内

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	0	0	0	0	0	0
2016年	0	0	0	0	0	0
2017年	0	0	0	0	0	0
2018年	1	0	0	30	0	0
2019年	2	1	0	58	30	0
合計	3	1	0	88	30	0

1 南河内二次医療圏の概要 (3) 診療実態の分析の結果

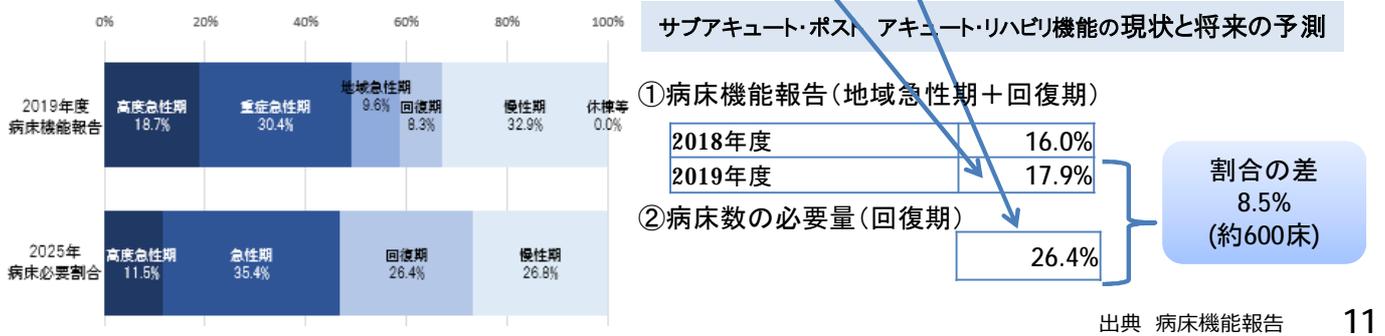
病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、南河内二次医療圏で約9%程度同機能への転換が必要と推計される

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
				重症急性期	急性期(不明)	地域急性期					
病床数の必要量	2013	741	2,089				1,468	2,154			6,452
病床機能報告	2014	1,061	3,452				192	1,953	1	185	6,844
病床機能報告	2015	1,249	2,896				347	1,895	1	403	6,791
病床機能報告	2016	1,029	3,030				479	2,020	10	107	6,675
病床機能報告	2017	1,267	2,744	1,988	0	756	517	2,160	70	1	6,759
病床機能報告	2018	1,257	2,676	2,172	0	504	559	2,179	0	0	6,671
病床機能報告	2019	1,257	2,685	2,041	0	644	558	2,209	1	0	6,710
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	769	2,375				1,771	1,796			6,710
病床数の必要量【オリジナル】	2025	814	2,515				1,875	1,902			7,106

● 病床機能報告（2019年度）と病床数の必要量（2025年）の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	重症急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等
病床機能報告	2018	18.8%	32.6%	0.0%	0.0%	7.6%	8.4%	32.7%	0.0%
病床機能報告	2019	18.7%	30.4%	0.0%	0.0%	9.6%	8.3%	32.9%	0.0%
病床数の必要量	2025	11.5%	35.4%				26.4%	26.8%	

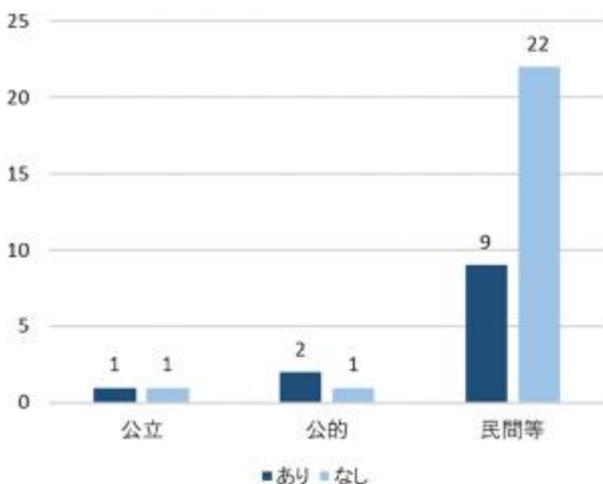


将来のあるべき医療体制に向けて

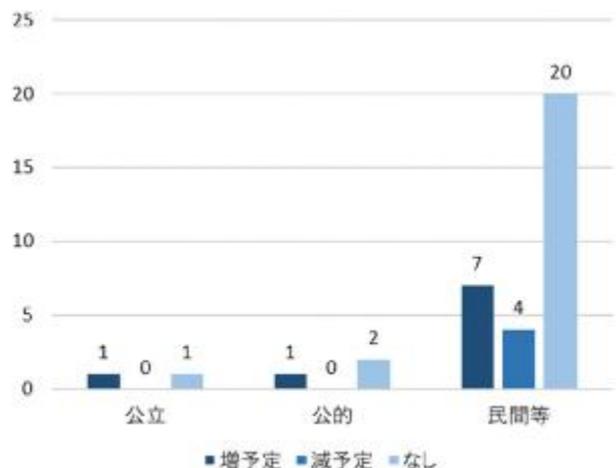
(1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等①

約3分の1の医療機関が、2025年までの建て替えについて、検討している

● 2025年ま建の建替替えの検討の有無



● 2025年に向けた診療科の見直しの予定の有無



参照 2020年度病院プラン調査等

2 将来のあるべき医療体制に向けて

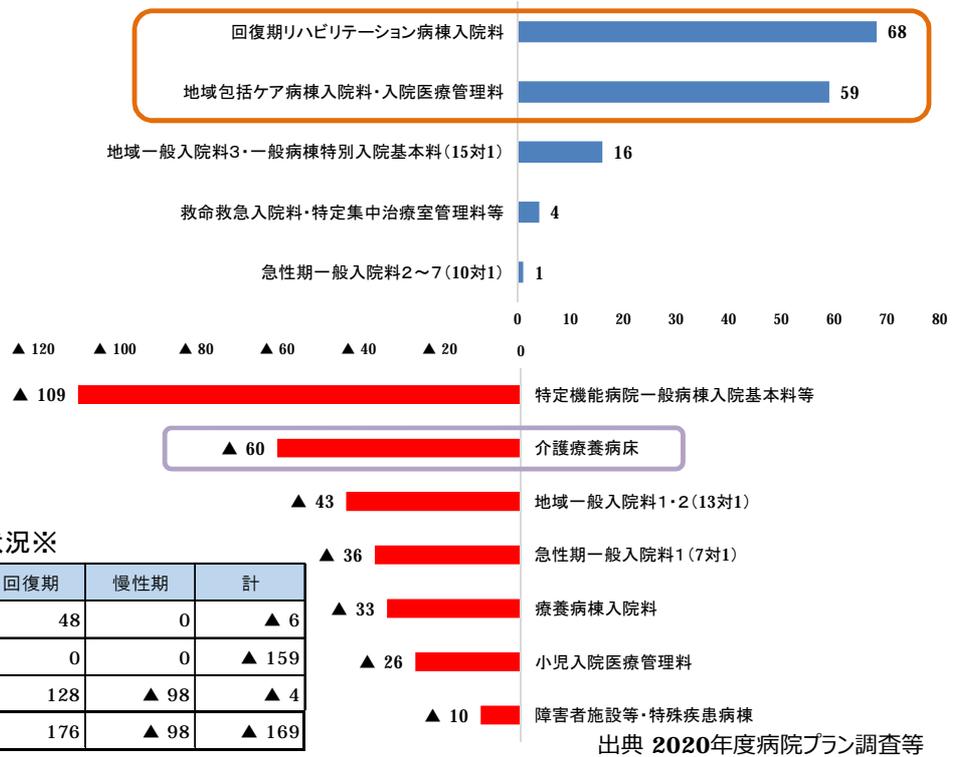
(1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能②

各病院が検討している病床機能等の変更は、構想が目指す病床機能分化の方向性と概ね一致している

●入院料別の検討状況※

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	▲ 54	48	0	▲ 6
公的	▲ 119	▲ 40	0	0	▲ 159
民間等	0	▲ 34	128	▲ 98	▲ 4
計	▲ 119	▲ 128	176	▲ 98	▲ 169

2 将来のあるべき医療体制に向けて

(1) 2025年に向け各病院が検討している医療機能・病床機能等③

●【参考】保健所所管内別病床機能の検討状況※

病床機能別増減表(藤井寺保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	▲ 54	48	0	▲ 6
公的	0	0	0	0	0
民間等	0	▲ 6	110	▲ 60	44
計	0	▲ 60	158	▲ 60	38

病床機能別増減表(富田林保健所所管内)

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
公立	0	0	0	0	0
公的	▲ 119	▲ 40	0	0	▲ 159
民間等	0	▲ 28	18	▲ 38	▲ 48
計	▲ 119	▲ 68	18	▲ 38	▲ 207

※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出

参照 2020年度病院プラン調査等

5 将来のあるべき医療体制に向けて

(1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能④

現在、南河内二次医療圏では、一法人が病院の再編を検討している

●再編前

住所	法人名	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	非稼働	計
藤井寺市	ラポール会	青山病院	0	50	42	0	0	92
河内長野市		青山第二病院	0	0	36	57	0	93
藤井寺市		青山藤ヶ丘病院	0	0	30	30	0	60
計			0	50	108	87	0	245



●再編後

再編統合予定時期	医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計
2021年11月	青山病院（藤井寺市）	0	44	92	0	136
	青山第二病院（河内長野市）	0	0	20	29	49
	青山藤ヶ丘病院（藤井寺市）	0	0	30	30	60
計		0	44	142	59	245
増 減		0	▲ 6	34	▲ 28	0

15

5 将来のあるべき医療体制に向けて

(2) 2025年に向け各病院が検討している病床機能のまとめ

- 将来に向けて地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟の病床数は増加する傾向が見込まれる。
- 2025年に向けて回復期病床は、圏域全体で増加の見込みだが、藤井寺保健所管内において、より顕著となっている。
- 当圏域の病床機能等の変更については、本構想が目指す病床機能分化の方向性と概ね一致している。

16